

みちしるべ

第138号

人権・同和問題啓発広報
人権同和政策課
☎ 22-7506
同和教育・啓発推進会議

出雲市同和教育研究指定事業の取組

市では、市内の地区同和教育推進協議会を指定し、当該地区内の幼稚園、小中学校、保育園(所)、コミュニティセンター等が連携を図りながら、「真に明るく住みよい民主的な社会の創造」を目指した地域ぐるみの同和教育を推進できるように、同和教育研究指定事業を実施しています。
平成27・28年度に指定した地域の取組を紹介します。

○古志地区

〔活動テーマ〕

明るく、心豊かな 郷づくり
くともに学んでめざそう 人権尊重のまち古志

古志地区では、人権が尊重される民主的な社会の実現をめざし、この研究指定事業を契機に古志地区がより明るく住みやすいまちとなるよう、活動目標を「一人ひとりの人権が尊重される古志地区をめざして、人権・同和問題の認識、知識を深める研修活動をとおして、その解決に取り組む」とし、さまざまな取組を展開しました。

事業を効果的かつ着実にすすめるため、活動の推進組織として「古志地区同和教育研究指定事業推進会議」を編成し、5つの専門部を設け、地区の総力をあげて取り組むことにしました。取組にあたっては、各専門部が連携をとり、町内人権・同和教育研

会、講演会、視察研修、意識調査の実施、また、人権標語の募集や広報誌「清流」の発行による啓発活動を実施しました。

1年目には、活動テーマを周知するため、広報啓発標示板を古志コミュニティセンターに設置しました。島根県人権啓発推進センターや松江市立菅田会館を訪問し、同和問題に関する正しい認識と理解を深める研修を行いました。地区全体の人権・同和教育講演会を3回開催し、町内会単位の研修を町内集会所やコミュニティセンターで実施し、人権・同和問題について学びました。

2年目には、島根あさひ社会復帰促進センターを訪問し、官民協働の刑務所運営と

受刑者の社会復帰に向けた取組について説明を受けました。また、ビデオフォーラム研修の実施、前年の意識調査結果の報告による啓発を実施しました。

講演会や研修会は地域をあげて取り組み、多くの人の参加がありました。これらの中にある不合理に気づき、それを無くすことへの取組の必要性を認識することができました。また、古志幼稚園、古志ひまわり保育園、神戸川小学校、第二中学校と連携することで、教職員の地域研修会への参加、地域から各園・学校の公開授業、講演会への参加など地域・学校・園が一体となって事業に取り組むことができました。

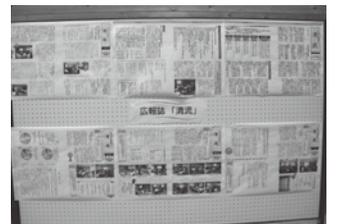
昨年11月の発表会では、古志幼稚園、神戸川小学校の公開授業、そして2年間の取組の発表、その後、中倉茂樹さんを講師に迎えての講演会(演題「ぬくもりを感じて」)を行い、参加者にとって貴重な学習の場となりました。



研究発表会



啓発標示板



広報誌「清流」

古志地区

同和教育推進協議会
伊藤捷芳会長から

古志地区では、活動テーマを「明るく、心豊かな郷づくり」くともに学んでめざそう 人権尊重のまち古志」とし、一人ひとりの人権が尊重される古志地区を目指し取り組んできました。

古志地区と神戸川小学校、第二中学校、古志幼稚園、古志ひまわり保育園の四つの学校・園と連携をとりながら、人権・同和教育研修会、町内研修会、講演会、人権標語の募集、意識調査、広報誌「清流」の発行、ビデオフォーラム、先進地視察研修等を実施しました。これらの取組により、意識調査の結果からも、住民の人権・同和問題についての関心が高まり、少しずつではありますが成果があったことを実感できました。

今後とも同和問題をはじめとしたさまざまな人権問題の解決に向け、地区・学校・園・家庭が連携をとり、地道な啓発活動を実施し、世間体にとらわれず、偏見、差別のない明るく心豊かな古志の実現をめざして取り組んでいきたいと思っています。

○佐香地区

〔活動テーマ〕

助け合う 心豊かなまちづくり
思いやりの心を育てる 佐香をめざして

佐香地区では、人権・同和問題に関するア

ンケートから、「人権・同和問題講演会や研修会に参加したことがない」一開催されていることを知らない」の回答が半数以上あったこと、また、世間体を気にし、自分の考えを人に言えないという地域性があることから、研修活動をおして人権・同和問題への認識と知識を深め、「気づく・考える・行動する」思いやりの仲間づくりをめざした取組を展開しました。

取組を実践するにあたり、まずは、事業の推進組織である同和教育推進協議会の役員を対象とした研修を重ね、役員自身の人権・同和問題に対する理解と正しい知識を養い、意識の向上を図りました。

1年目には、国立療養所長島愛生園を訪問し、ハンセン病患者に対する偏見や差別の歴史について学びました。また、2年目には、江津市人権啓発センターを訪問し、竹細工職人の方から差別を受けた歴史と竹細工を伝統工芸として後世に残していこうとする取組について説明を受けました。

地域での研修として、1年目には、12会場で町内研修会を開催し、2年目には9会場でビデオフォーラム研修を実施しました。いずれの研修でも、自分自身を見つめ直し、日常生活の中で人権・同和問題を正しく理解することの重要性について学びました。また、ご自身の体験をもとに差別をなくすために取り組んでおられる講師による講演会を2年間で3回開催し、差別の現実から学び、差別をなくすための取組の重要性についてあらためて

認識することができました。

昨年12月の発表会では、2年間の取組の発表と飯塚大幸さんを講師に迎えて講演（演題「心の目をひらく」）を行い、参加者にとって貴重な学習の場となりました。



県外視察（岡山県 長島愛生園）



県内視察（江津市人権啓発センター）



研究発表会

佐香地区

同和教育推進協議会

土江宣行会長から

佐香地区においては、漁村集落特有の温かな人間関係と団結力は特別なものがある一方、プライバシーに関わる情報も得やすくなることから、場合によっては人権侵害につながるようなことが起きる可能性もあります。

また、地域では、人権・同和問題について考える機会は少なく、住民の人権・同和問題に対する関心も低いという実態がありました。

「他人事」と思っている人が多いからこそ、地域研修の必要性が高く「気づく・考える・行動すること」を浸透させる努力が必要であると実感しました。

そこで意識調査から始まって、人権講演会、小単位ごとのビデオフォーラム、視察研修等を学習していききました。会合を重ねるごとに人権・同和問題に関わる正しい知識や理解も深まっていき、研修に参加する人も増えていくようになりました。

また、徐々に、日常から人権問題に関心をもつ、日頃から使う言葉にも気を遣うといった前向きな姿勢が見てとれるようになりました。事業の成果であります。

研究指定事業を通じ、地域皆が人権・同和問題の学習ができたことは「気づく・考える・行動すること」の第一歩であります。

今後より一層多くの地域の方が、人権・同和問題への理解を深めるためにも、継続して啓発活動を展開していかなければならないと思っております。

平成28・29年度の研究指定を受けている西田地区及び出西地区では、現在さまざまな取組が地域で行われています。

指定2年目となる今年度、これらの取組の成果などの発表会が次の予定で開催されます。

- 西田地区人権・同和教育推進協議会
とき 12月9日(土) 主会場 西田小学校
- 出西地区人権・同和教育推進協議会
とき 11月18日(土) 主会場 西野小学校

同和教育は、部落差別をはじめとするあらゆる差別をなくし、すべての人々の人権を尊重する取組です。今回紹介した研究指定を受けた地域だけでなく、研究指定を受けていない地域でも、さまざまな取組が行われています。皆さんも積極的に参加しましょう。